

標 題 県オリジナルアジサイ“万華鏡”の花芽分化について

(ダイジェスト)

島根県アジサイ研究会（以下「アジ研」と略す）では平成24年から県オリジナルアジサイ‘万華鏡’の栽培に取り組んでいます。装飾花の覆輪が特徴的な品種です。今回は、平成30・31年の2シーズンで取り組んだ本品種の花芽分化について、調査結果を紹介します。

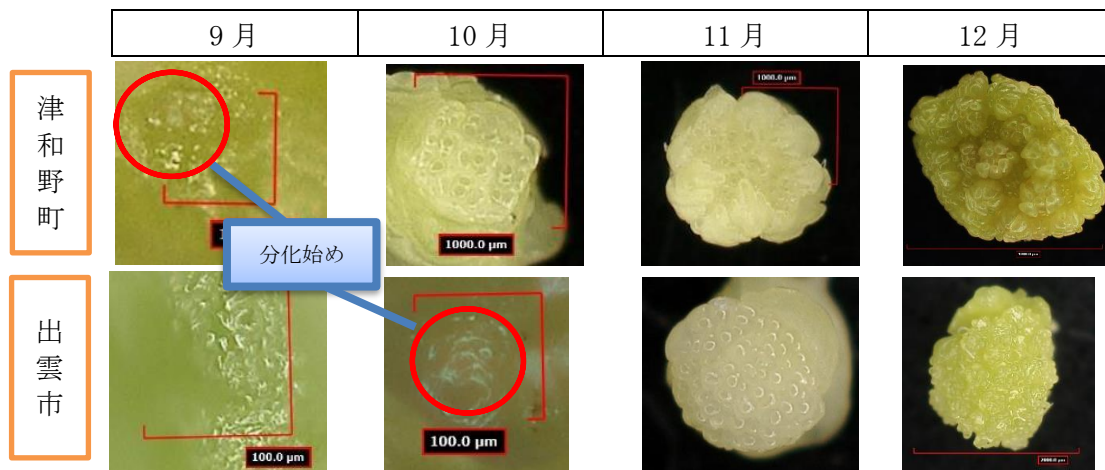
アジ研は、H24年産から島根県農業技術センター（以下「農技C」と略す）で育種された県オリジナル品種の栽培に取り組み、ジャパン・フラワー・セレクション鉢花部門で最優秀賞を受賞した‘万華鏡’（2012年）、‘銀河’（2016年）を核にした有利販売を続けています。

会員数は、令和元年12月現在で15名。県内の東西部で栽培に取り組んでいます。西部会員は準高冷地には場があります。アジ研では、各専門部を設け「技術・マニュアル班」が作成した栽培管理マニュアルを基本にしていますが、着色が不十分なもの、短丈開花や覆輪が不鮮明なもの等々、出荷ロスが生じています。これは、県西部でやや多い傾向にあります（第1図）。



第1図 出荷できる‘万華鏡’（左）とできない‘万華鏡’（右）

これらの要因は様々考えられますが、その一つとして、標高の違いが花芽形成に及ぼす影響を調査しました。準高冷地（標高300m、津和野町）と平坦地（標高20m、出雲市）の花芽を同時期に顕微鏡下で比較観察した結果を以下に示します（上段：準高冷地、下段：平坦地、H30年）。



第2図 H30年産‘万華鏡’花芽の推移

花芽の分化始めは、準高冷地では9月中旬、平坦地では10月上旬でした。一方で、H31年では9月下旬、平坦地では10月中旬でした。この時期の各地域の2ヶ年の気温データから、18℃以下のほぼ連続した積算時間が60時間で、花芽が誘導されると推察されました（データ不掲載）。一方で、農技C花き科では、同時期の施肥が休眠明けの生育に影響を及ぼすことも確認しています（今後、公表予定）。今回の調査結果は、第1図で示した「装飾花の覆輪」に直接関与していると言えませんが、花芽形成時期を考慮した最終摘芯時期や施肥晩限など、準高冷地版の栽培管理マニュアル作成につなげていけたらと考えています。

農技Cでは、育種元として各オリジナル品種の特性に応じた指導を各農業普及部と連携して実施しています。今後も、アジ研会員と切磋琢磨して、良品出荷に努めていきます。